

最近の電子マネーの普及は目覚ましい。1枚のカードで駅の改札口を通り、バスに乗り、スーパーやコンビニで買い物ができる。財布の中に硬貨があふれることはなくなった。

1円から50円までの小額硬貨の流通量が徐々に低下している。1円硬貨は、2002年の410億枚をピークに2008年には405億枚まで減少した。5円、10円、50円硬貨

## 電子マネーと1円玉

も同様の傾向がある。消費税が内税化され値札がキリのよい数字になった(2004年4月)こともあるが、電子マネーの普及が小額硬貨を駆逐している。

提案だが、1円硬貨を流通廃止にしよう。5円単位以下の端数は、電子マネー利用の場合は、そのまま決済する。しかし、現金利用の場合は、端数は0円か5円に「二捨三入」、さらに5円か10円に「七捨八入」することを経済で認める。実はオーストラリアやニュージーランドで

東京大教授

伊藤 隆敏

は、1円硬貨がなく、二捨三入や七捨八入が混乱なく実施されている。

1円玉の廃止のメリットには、民間の小売店で、釣り銭としての



1円玉の保有コストを減らせることもあるが、一番大きいのは、政府が1円硬貨の製造コストを節約できることだ。

流通硬貨数は微減で

も、毎年摩耗した硬貨を廃棄、新たに製造している。2009年度は、1円硬貨を1億4000万枚製造する。1円硬貨1枚の製造流通コストを、原材料アルミの使用量(1枚1g)や人件費などから推計すると、1枚約2円のコストがかかると思われる。

铸造費用だけで、2億8000万円の税金の消費になっている。1回限りではなく、毎年の節約だ。

逆説的だが、お金(1円玉)を消すことが「埋蔵金」の発見だ。

## 硬貨の流通量は次のとおり

(単位 億円)

年	貨幣流通高 (注)						
	総額	五百円	百円	五十円	十円	五円	一円
平成 8	39,176	13,057	9,618	2,258	2,068	616	399
9	40,458	13,795	9,784	2,292	2,083	627	403
10	41,215	14,476	9,820	2,298	2,078	630	405
11	41,873	15,105	9,969	2,310	2,078	631	407
12	42,225	15,554	10,011	2,299	2,070	630	408
13	42,937	16,268	10,131	2,300	2,077	629	410
14	43,664	17,047	10,187	2,310	2,077	627	410
15	44,225	17,624	10,295	2,305	2,082	624	409
16	44,919	18,368	10,372	2,296	2,083	619	408
17	45,022	18,564	10,439	2,270	2,078	611	408
18	45,285	18,879	10,518	2,258	2,075	605	408
19	45,773	19,428	10,575	2,261	2,068	600	407
20	45,903	19,719	10,584	2,241	2,048	591	405

(注) 記念貨を含む。日本銀行保有分を除き、市中金融機関保有分を含む。(資料) 日本銀行

## 2009 年度の鑄造計画はつぎのとおり。

<http://www.mof.go.jp/jouhou/sonota/kokko/21kaheikeikaku-henkou2.htm>

(単位: 百万枚、億円)

種類	枚数	金額
千円	0.40	4.00
五百円	413.67	2,068.35
百円	110.00	110.00
五十円	1.00	0.50
十円	380.00	38.00
五円	1.00	0.05
一円	140.00	1.40
計	1,046.07	2,222.30

(注 1) 貨幣は、独立行政法人造幣局が製造し(独立行政法人造幣局法第11条第1項第1号)、財務大臣が日本銀行に製造済の貨幣を交付することにより発行される(通貨の単位及び貨幣の発行等に関する法律第4条第3項)。

造幣局は、貨幣の製造については、財務大臣の定める製造計画に従って行わなければならない(独立行政法人造幣局法第12条)。

(注 2) 五百円貨のうち 367 万枚は、地方自治法施行60周年記念貨幣(長野県分 183 万枚・新潟県分 184 万枚)である。

これまでの鑄造実績時系列は、

<http://www.mint.go.jp/data/index.html>

でみることができる。

1 円硬貨鑄造の最高の年は、2000 年度で、27 億 6900 万枚。

### アルミ価格

東京のアルミ先物価格 (円/kg) では、

2007 年 2 月に約 400 円をつけたが、2009 年 4 月に 154 円となっている。つまり、1 グラムの 1 円玉の材料費は、0.15 円~0.40 円、である。この地金を加工、流通させるまでに、鑄造 (加工) 費用、人件費、保管・運搬費用が追加的にかかる。

### 将来シナリオ

もしアルミ価格が暴騰して、1 グラム 1 円を超えたらどうなるだろうか。1 円玉を大量に回収して、溶かすことで利益が生まれることになる。貨幣の破壊や溶解は、法律で禁止されているので、日本人や日本上場企業がこれを大量におこなうとは思えないが、市場から一斉に一円玉が姿を消すであろうとことは容易に想像がつくであろう。そうなる前に、一円玉を廃止して日本政府が回収すべきである。